

平成 30 年 11 月 25 日（日）施行

第 192 回 全経簿記能力検定試験 2 級 工業簿記 解説

第 1 問

1. 製造作業に従事しているため、直接労務費
2. 消耗工具器具備品費のため、間接材料費
3. 製造作業に従事していないので、間接労務費
4. 主要材料費のため、直接材料費
5. 月割経費のため、間接経費

第 2 問

1. 内金として現金を受け取った。前受金で処理する。
2. 材料購入を掛けで行った。
3. 材料消費額を仕掛品勘定に振り替える。
4. 小切手振り出しは当座預金で処理する。
5. 賃金消費額および製造間接費を仕掛品勘定に振り替える。
6. 売上計上と同時に、製造原価を売上原価に振り替える。

第 3 問

月末仕掛品原価と完成品原価を求める。

材料はすべて始点で投入。月末仕掛品の評価は先入先出法。したがって計算表は下記のようなになる。

先入先出法による原価計算 単位：円

原価計算表

	数 量	直接材料費	換算量	加工費	合 計
当月投入	8,000	780,000	8,250	8,246,700	9,026,700
月末仕掛品	1,500	①146,250	750	②749,700	895,950
差引	6,500	633,750	7,500	7,497,000	8,130,750
月初仕掛品	2,000	210,000	1,000	1,004,125	1,214,125
完成品	8,500	843,750	8,500	8,501,125	9,344,875

① $780,000 \times 1,500 \text{ kg} \div 8,000 \text{ kg} = 146,250$

② $8,246,700 \times 750 \text{ kg} \div 8,250 \text{ kg} = 749,700$

第4問

- ① 間接材料 218,112 消費している。
- ② 直接工の直接作業時間分の賃金 4,120,000 消費している。
- ③ 製造間接費 2,791,002 を仕掛品に配賦。
- ④ 仕掛品 8,846,599 が完成し、製品に振り替える。
- ⑤ 原価 10,319,840 の製品を販売している。

第5問

原価計算表の作成

#56

直接労務費 =	44,000	直接労務費の合計 550,000 ÷ 直接作業時間合計 250 時間 = 賃率 2,200 賃率 2,200 × 20 時間 = 44,000
製造間接費 =	117,600	製造間接費合計 1,470,000 を配賦基準（直接労務費）用いて、配賦する。 $1,470,000 \times 44,000 \div 550,000 = 117,600$

#57

直接材料費 =	169,500	材料元帳払出欄より 10/6 に出庫している。
直接労務費 =	396,000	賃率 2,200 × 180 時間 = 396,000
製造間接費 =	1,058,400	製造間接費合計 1,470,000 を配賦基準（直接労務費）用いて、配賦する。 $1,470,000 \times 396,000 \div 550,000 = 1,058,400$

#58

直接材料費 =	263,750	材料元帳払出欄より 10/27 に出庫している。
直接労務費 =	110,000	賃率 2,200 × 50 時間 = 110,000
製造間接費 =	294,000	製造間接費合計 1,470,000 を配賦基準（直接労務費）用いて、配賦する。 $1,470,000 \times 110,000 \div 550,000 = 294,000$